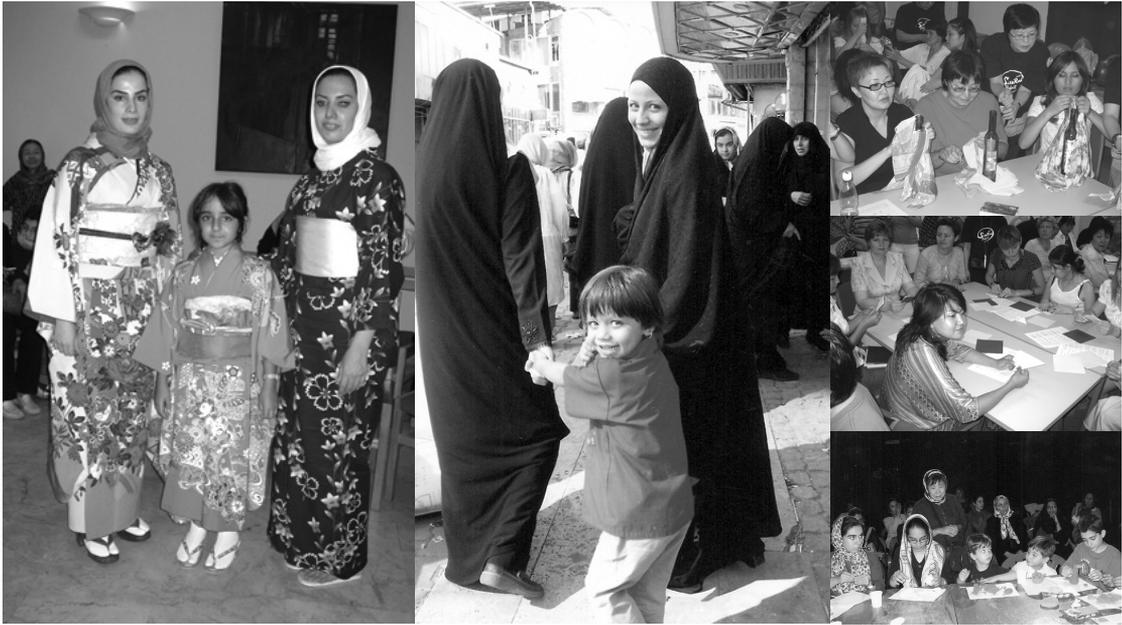




ウズベキスタンのモスク

トルコ、カッパドキア



着付けした三人（イランの首都テヘラン、アーティストハウスでのワークショップ）

イランのバザールにて

上／風呂敷ワークショップ 中／折紙ワークショップ
（キルギス・ビシュケク、日本センター）
下／子供の紙粘土ワークショップ
（イランの首都テヘラン、アーティストハウス）

持参した企画展は、日本現代テキスタイルアート展／ファイバーアートミニアチュール展／FUROSHIKI—用と美—／日本の児童画100点／ORIGAMI—遊びの幾何学—。ワークショップとして着物の着付／風呂敷のノウハウと包み方／折紙技法／楽しい造形（粘土細工）と竹とんぼ飛ばし等々、更に要地イスタンブールでは国立マルマラ大学との共催によるシンポジウムを2日に亘り行いました。議題は「テキスタイルアートワークに於ける伝統と現代の融合」でした。

展覧会も地元トルコの作品群と合同で日本のテキスタイル展が開催され、FUROSHIKI展やワークショップも行い、日本の美意識や和の心を伝える努力をしました。限られた時間ではありましたが私達にとっての大きな収穫は町の人々との触れ合い、バザールや町中のチャイでは人々の生活のなまの風俗や日常生活を垣間見れる機会でありました。チャドルをすっぽりかぶった姿は近づき難いものがありましたが、人なつこい笑顔で「ジャポン？一緒に写真を撮らせて」と声をかけられることも度々で驚くやら嬉しいやらでした。染色や織物、刺繍、衣裳やアクセサリーをはじめ陶芸、木工、彫金などものづくりの伝統工芸に興味深いのは当然ですが、各地の遺跡や建造物、博物館、研究所、工房、学校などの訪問はその国の歴史や文化、伝統、教育事情を知る上に大きな糧と示唆になりました。

万里の長城、桜蘭の美女、玉門、イシククル湖畔の石絵、ヒヴァの町、メルブの遺跡、ヤズドの丘、ペルセポリス、カッパドキアの地下都市などなど、数千年の歴史を一挙に旅して思うことはあらためてアジア